

FP Topics =リタイア後の社会保障など= 2025年8月号

=One's impressions=

お盆も過ぎましたが、一向に涼しくなる気配がありません。ひと昔前は、お盆を過ぎると夕暮れ時には秋の気配を感じたものです。地球レベルの気候変動なのでしょうか・・・室町時代は今より暑かったという説もありますが本当でしょうか？最近オゾン層の話はあまり聞かなくなりましたね？

さて、今月から人生100年時代を大きなテーマとして、特集してみたいと考えています。昨今の税制改正や社会保障制度の見直し等は混迷を極めています。わかりづらいこと、極まりないですね(>_<)税制(主に所得税制)や社会保障制度の改正等には注意が必要です。知っていると知らないでは、身の振り方に大きく影響を及ぼすことになると思います。

人それぞれ事情が異なり、様々な考え方があると思われれます。そこがパーソナルファイナンスの難しいところだと感じます。

=定年後の可処分所得=

現在のところ、お勤めされている方の多くは、60歳定年が一般的です。定年以降も、その企業で継続して働く場合、現状、企業は65歳までは雇用する義務があります。しかし、年収は一般的に現役時代の約半分(1/2)程度になるようです。

健康保険や住民税の算出方法は、勤め人の方には未知の世界だと思います。所得税と一緒に特別徴収(給与から天引き)されていたから、何がどのような計算で徴収されていたのか、理解されてない方が多いのではないのでしょうか？かなりの金額が天引きされていました。一般的な収入で、税込年収の約20%を負担していたのです。手取り額(銀行に振込まれる金額)は税込年収の約80%なのです。この手取り金額を可処分所得といいます。

定年後の実際の手取り収入(可処分所得)は、しっかりと管理する必要があると考えます。前出の住民税の負担額は、前年の所得(収入)で計算されます。60歳で定年する場合、翌年以降、年収が半減するにもかかわらず、翌年に負担する住民税の金額は、現役時の所得により算出されるのです。会社の健康保険から国民健康保険に移行する場合は、国民健康保険も前年の所得で算出されます。

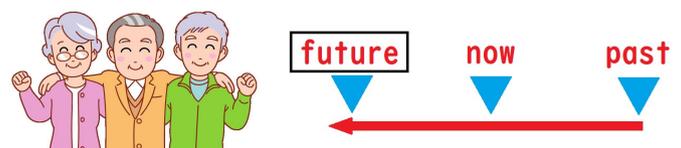
年金受給開始までの収入と支出をしっかりと管理する必要がありそうです。今後の社会保障制度改革では、70歳定年も遠い話ではないような勢いです。それに合わせて、年金支給開始時期も遅くなるのかもしれない・・・

=リタイア後の社会保険等について=

定年後も正社員として同様の雇用形態で働く場合、社会保険上の被保険者資格について変更はありません。しかし、収入が半減することを踏まえ、キャッシュフロー的には注意が必要です。

その他、定年後に正社員以外の働き方を選択する場合、社会保険の加入形態も変わります。働き方としては、パートタイム・業務委託・独立開業等、様々な形態があります。

人生100年時代を生き抜くためには、ライフシフトを再考する必要があるようです。これまでの様なステレオタイプの人生設計では、人生を持て余してしまうのかも知れません。リタイア後の人生をより良く生きるためには、社会保障制度等をより良く理解し、使える制度はしっかりと使いたいものです。



◆ 健康保険について

健康保険の対象年齢は75歳になるまで。
正規雇用として会社勤めをしていたとしても、
75歳から後期高齢者医療保険の対象者となります。

◆ 厚生年金保険について

厚生年金保険は70歳まで。正規雇用として勤務
していた場合でも被保険者資格は喪失します。
なお、65歳になると厚生年金保険の被保険者で
あっても、国民年金の2号被保険者資格は喪失し
ます。その時点で3号被保険者である配偶者がい
る場合、配偶者は第1号被保険者となり、配偶者
は国民年金保険料を納付する必要性が生じます。

◆ 介護保険について

介護保険は被保険者の上限年齢はありません。
40歳～64歳までは第2号被保険者ですが、65歳に
なると第1号被保険者となり、正規雇用として勤
務を継続していても保険料は給与から控除されな
くなります。（通常は年金から控除）

◆ 正規雇用からその他の働き方に
シフトする場合の健康保険の選択について

国民健康保険料は前年の所得によって算出される
ことから、現役時代の所得が比較的高額な場合、
保険料は高額になることがあります。この場合定
年退職する会社の社会保険に任意継続加入（2年
間）を比較検討する必要があります。

◆ 高年齢雇用継続給付について

60歳以降も勤務を継続するときに、60歳到達時
の賃金に比較して賃金が75%未満に下落した場合、
雇用保険の高年齢雇用継続給付の支給対象になり
ます。（下落幅により段階的な給付割合）
2025年4月以降、64%以下に下落した場合支給対
象月に支払われた賃金の最大10%。



谷を源流域（源頭）まで詰め上がると、傾斜はかな
りきつくなります。谷の弱点を探りながら、稜線に
這い上がるルートを探します。初めて遡行する谷で
は、この儀式は緊張します。手に入るほとんどの遡
行記録には、詰めの詳細な記述はありません。遡行
者の楽しみを削ぐことになるからだと思います。

パーティの体力や技量を考慮し、想像力をフルに働
かせて、ルートを探します。釈迦ヶ岳頂上直下の千
丈平に飛び出すルートを、地図と勘を頼りに詰め上
がるのです。この時期はまだ、GPSを持っていない
頃でした。GPSは高度や位置を正確に把握するこ
とができます。どんなに深い谷にいても、自分がど
こにいるのか、完璧に管理できるのです。

文明の利器はすごいと思います。標高も地図とピッ
タリ合います。あまり面白くないですが・・・
この時は、草付きを無理やり這い上がり、典型的な
獣道をトレースして、千丈平の水場（行者のかくし
水）にドンピシャで詰め上げたこと記憶しています。
この斜面につけられている登山道は、釈迦ヶ岳から
深仙の宿に向かう巻き道です。

そんなに多くありませんが、この巻き道も登山者は
歩いています。登山者は急な斜面を這い上がって来
るおかしな人たちを、見て見ないふりをしているよ
うな素振り。人間のいる空間に戻る瞬間です。いつ
も妙な気持ちになります。

水場の先は千丈平。整備された登山道が通じていて、
テント場もあり、人がわんさか歩いています。
沢の装備を解き、濡れた服を着替え、沢靴を登山靴
に履き替えます。緊張が解かれ、気持ちが緩やかに
なる瞬間です。大峯らしい、しっとりとした美しい
佇まいに、心が癒されます！

